

30八社児発第10号

平成31年2月4日

八王子市長 殿

八王子市社会福祉審議会

会長 和田 清美

八王子市社会福祉審議会における審議結果について（答申）

平成30年4月23日付30八福福発第42号八王子市社会福祉審議会あて諮問書における児童福祉に関することに関し、提議を受けた下記議題について、下記のとおり答申します。

記

1 提議を受けた会議の名称

平成30年度第5回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

2 審議日

平成31年2月4日（月）

3 議題

第4次子ども育成計画（仮称）策定に関する基本的な考え方について

4 審議内容

別紙1のとおり

5 審議結果

適当と考える。ただし、以下の意見を付す。

6 付帯意見

計画の基本理念及び計画策定の視点は、別紙2のとおり当審議会の考えを尊重されたい。

次期計画策定の基本的な考え方について

現行計画の路線を継承しつつ、次の考え方をもとに次期計画の策定を行う。

<p>継続する主な考え方 (充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「子どもにやさしいまち」、「子育てしやすいまち」の実現(保・幼・小連携、児童虐待防止の取組、八王子版ネウボラの推進、ひとり親家庭への支援など) • 子育てプロモーションの推進(子育てモバイルサイト、メールマガジン、SNSでの情報発信など)
<p>新たに加える視点や 考え方 (新規)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ビジョンフォーラムの成果を活かし、次の100年を担う子どもたちの視点を取り入れる。 • 子どもの生活実態調査の結果を踏まえた、生活に困難を有する子どもとその家庭への支援。 • ひきこもりや居場所づくりなど、子ども・若者に関する課題に対応するため、子ども・若者計画を内包する。(子ども・若者育成支援推進法への対応)
<p>目標達成による縮小</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 保育所等の整備拡充

1 基本理念

第4次子ども育成計画(仮称)にあつては、現在の計画である第3次子ども育成計画「ビジョンすくすく はちおうじ」の基本理念「みんなで育てる みんなが育つ はちおうじ」を引き継ぐとともに、平成29年度開催の子どもミライフオーラムでの子どもたちの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」を受け止め、反映させることを考慮すべきである。

そして、子どもから大人まで市民全員が主体となって未来を考え、共に目指す必要があることから、当審議会は、次の基本理念を提言する。

「みんなで育てる みんなが育つ わたしたちがミライにつなぐ はちおうじ」

2 視点

策定にあつては、次に挙げる4つの視点を踏まえて作業を進められたい。

(1) 国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)

児童福祉法第二条では、子どもの権利条約をふまえ、「全て国民は、児童が良好な環境において生まれ、かつ、社会のあらゆる分野において、児童の年齢及び発達に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない。」と定めており、子どもの権利を尊重し、子ども・若者が参画する社会の実現を求めている。

また、「国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)」では、持続可能な社会をつくるため、すべての人間の貧困からの脱却、公正で包括的な社会、人権の保護を目標に含めており、子ども・若者にとっての課題や権利の尊重と密接な関係にある。

これらのことから、次期子ども育成計画は、子ども、若者及び八王子市の未来を見据え、子ども・若者に関わる持続可能な開発目標(SDGs)の視点を取り入れて策定するよう求める。

(2) 子ども・若者の安心と安全の可視化

子ども・若者を取り巻く社会環境は、虐待、いじめ、搾取、犯罪の巧妙化など、悪化の要因が多様化するとともに、対策も後手に回り、彼らに安心を保障するには至っていない。

未来の社会を築く子ども・若者をこうした環境から守るには、その第一歩として、子どもを第一に考えるチャイルド・ファーストの方針を柱に据え、子ども・若者にとってわかりやすく、困難に直面した彼らがハードルを感じない、利用しやすい救済の仕組みを築いてほしい。

以上、子ども・若者自身が「社会によって守られる仕組み」を認知し、「安心」を実感できる「安心と安全の可視化」の視点を持って策定するよう求める。

(3) 誰もが未来に挑戦できる「フェアスタート」

子ども・若者は、社会を構成する当事者であり、大人と共に、未来を考える社会の一員である。ところが、格差社会と言われている中で、子ども・若者自身に起因しない部分が原因で、未来への選択肢が限られてしまう、夢を放棄せざるを得ない子ども・若者が現実には存在する。このことは、子ども・若者の生きる意欲の阻害要因であると同時に、未来の社会にとっての損失でもある。共に未来を考える子ども・若者の誰もが未来へ挑戦できる環境が求められる。

以上のことから、家庭の経済環境、養育環境、性別などで夢と希望が絶たれてしまうことが無い、だれもが等しく未来に挑戦できる「フェアスタート」の視点を持って策定するよう願う。

(4) サポートがつながる妊娠期・子ども期・若者期

持続可能な社会であるために、妊娠期、子育て期、若者の自立、出会いと、若者期まで総合的なサポートが求められる時代となってきた。このような中、八王子市が少子化へ對抗するには、子育て環境を魅力あるものとし、安心して子育てができる都市として、子育て期の若者に選択されることが必要となってくる。

特に、子育て期へのサポートの中で中心となる保育の質を確保し、八王子市の保育の姿を明確に示してほしい。そして、保育を中心とした子育て環境の可視化と人材の育成との両輪で、妊娠期・子ども期・若者期の総合的サポートを構築し、魅力ある八王子の子育て環境を実現してほしい。

以上、保育の質の確保を中心に、妊娠期から若者期まで、サポートのつながりという視点を持って策定するよう求める。